

# 香川大学工学部ニュース

No. 22, 2007.1.15

## 工学部オープンキャンパス 2006 の開催

オープンキャンパス 2006 が 10 月 22 日（日）に工学部キャンパスで開催されました。当日は技能五輪が香川インテリジェントパーク内で開催されたことの相乗効果もあってか、例年を遥かに上回る推定 2500 人程度の来場者があり、おおいに盛り上がりました。特に年少のお子さん方が大勢来られ、良い科学体験をされていました。留学生によるお国自慢料理模擬店も人気で、国際交流も活発に行われました。（広報室）



パソコンによるお絵書き教室



ラジオの製作



学生ロボット研究所の展示



中国人留学生の模擬店

## タイ王国チェンマイ大学の訪問

香川大学では、タイ王国チェンマイ大学を中心とした国際教育研究拠点の形成を進めています。11月3日～5日に、チェンマイ大学から Sermkiat JOMJUNYONG 工学部長、Nipon THEERA-UMPON 副工学部長、Nat VORAYOS 機械工学科学科長の3名の教授が来校しました。工学部、農学部、医学部を訪問して研究施設を見学し、国際交流推進のための議論を行いました。(広報室)



栗林公園



山崎学部長訪問



お抹茶体験@掬月亭

## くらしと技術の建設フェアに参加

平成18年11月10日・11日、サンメッセ香川で、「くらしと技術の建設フェア in 高松」(主催：四国建設広報協議会)が開催されました。これは、国土交通省四国地方整備局が中心となって運営される建設分野の総合展示会で、4年に1度香川県に回ってきます。今年は、建設分野の官公庁、企業、教育機関など139の機関が出展し、香川大学工学部も安全システム建設工学科の紹介や香川の自然災害に関するパネル紹介などを行いました。10日には「土木の日」記念講演会として、安全システム建設工学科土井健司教授による「経済・社会・環境制約から見た持続可能な都市構造ビジョンーコンパクト・アーバン・グリーンー」の特別講演がありました。会場のサンメッセ香川が香川大学工学部の近くのため、建設分野をめざす多くの学生が見学を通じて建設産業の動向を俯瞰することができたことは、大変有意義でした。(広報室)



土井健司教授による特別講演



パネル展示の様子(長谷川研究室)



## 小柴昌俊先生の講演会を香川大学祭にて開催

今年の香川大学祭は11月2日(木)から11月5日(日)までの四日間の日程で行われました。その中で11月3日(祝)に、工学部祭実行委員会の学生が主体となり、香川大学にノーベル物理学賞を受賞された小柴昌俊先生を講師に迎えて、講演会を開催致しました。当日は700人以上の学生及び一般の方にご来場頂き、大変盛況のうちに講演会を終える事が出来ました。講演会の内容は「やれば、できる。」という講演題目のもと、日本の理科教育の問題点とそれに対する小柴先生のお考え、さらに先生が設立された平成基礎科学財団の話、また小柴先生の実際の研究に関する話などでした。小柴先生はとても優しい語り口で、非常に分かりやすくお話をされていましたので、きっと多くの方がこの講演会を楽しむ事ができたのではないかと考えております。会場では講演会の最後にいくつかの質問もあり、一方通行にならないとても良い講演会になりました。(材料創造工学専攻 博士前期課程 高嶋明人)



司会進行



講演中の小柴先生



質問



花束贈呈

## かがわけん科学体験フェスティバルへの参加

11月11日、12日に香川大学幸町キャンパスで開催された、第14回かがわけん科学体験フェスティバルにSLP(プログラミング研究所)として参加しました。この催しは、香川県内の小中学生が体験を通して科学技術への関心を高めてもらうためのもので、SLPとして4回目の参加になります。今回は、LEGO Mindstorms というロボットキットの紹介と立体視に関する展示を行いました。ロボットを制御するプログラミングを、ブロックを組み立てるような視覚的で簡単な方法で体験してもらうことを企画の中心としました。しかし、来場者には小学校低学年が多く、自分でリモコンで操作するロボットサッカーの方が人気がありました。立体視では、赤青メガネによるアナグリフ写真を展示しました。全体的には、かなりの人気ブースとなり、多くの子供達に何かを伝えられたのではと思います。(信頼性情報システム工学専攻 博士前期課程 倉田英和)



LEGO の説明

## スーパーサイエンスハイスクールの実施

三本松高校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）研究開発「サイエンスコラボレーション」（アカデミーステージ）が、平成 18 年 11 月 17 日に実施されました。安全システム建設工学科から、長谷川修一教授、寺林優助教授、石塚正秀助教授の 3 名が実習や講義を行いました。今回の研修では、これまでの「イベント型」から「学びを伴う体験型」の高大連携へとその活動を深化させていくことを狙いとして、少人数で、より綿密で実効性のある学習活動となるような工夫を凝らしました。参加者からは、「先生方と近い距離で対話することができ、学習内容も理解できた。」等の感想が寄せられました。今後も、地元の高校との連携を深めて、工学部の研究・教育内容を広く紹介していきたいと思えます。（広報室）



「岩石薄片分析コース」（寺林助教授）



「水文・気象観測コース」（石塚助教授）



「地震災害（五剣山巡検）」（長谷川教授）



## 小学校で無線体験教室

香川衛星開発プロジェクトと地域を結びつける香川サット推進クラブでは、アマチュア無線競技を小学生用にアレンジして、子供たちが無線を体験する教室を開催しています。人工衛星の電波を受信するためには、地上アンテナを衛星方向に向けると感度が良くなります。この原理を利用して、アンテナにより送信機を探すゲーム的要素を取り入れたイベントです。最近では、11月14日に栗林小学校、11月25日に屋島小学校で実施しました。今後とも、応援をお願いいたします。(知能機械システム工学科 能見公博)



三人一組でスタート！（屋島小）



練習風景（屋島小）



競技説明（栗林小）

## 研究室紹介：信頼性情報システム工学科 生越研究室・石井研究室

当研究室では、私たちの日常生活に欠かせない移動通信に関連するテーマで研究をしています。具体的には、狭い通信エリアを提供するピコセルネットワークを実現するための基盤技術や、ワンセグ放送のような通信と放送の連携技術などについて取り組んでいます。研究の過程では、実験等を通して可能な限り「モノ」に触れることに重点を置くとともに、評価ツールとしてのシミュレーション・プログラミング作成能力の向上などを目標としています。研究室メンバーは、大学院生を中心に、「自ら考え、自ら行動する技術者」を目指して研究を進めています。研究成果については、学会の研究会や国際会議などの場で発表し、自信を持って他の研究者と議論できるようにしています。このような取り組みにより、学会表彰や通信分野の有力企業への就職実績は着実に伸びています。今後も、石井光治先生とともに、世界に通用する技術者の育成を目指してがんばっていききたいと思います。



研究室メンバー（工学部屋上にて）

## 工学部から初の教員誕生

工学部では2003年入学生より教員免許取得が可能になりました。その第一期生として教員免許を取得した学生の中から、信頼性情報システム工学科の山地修司君が難関を突破して香川県教育委員会から教員採用の内定を受け、工業科目ならびに情報科目の教員として2007年4月にいずれかの県立高校で教鞭をとることになりました。山地君は香川大学サッカー部でも活躍していた文武両道の学生であり、専門科目に限らない様々な活躍をしてくれるものと期待しています。高校生のみなさんよろしくお願ひします。（広報室）



山地修司君

## トピックス

### 学術賞受賞等

11月18日（土） 近藤昌博(学部4年生)（指導教員 石丸伊知郎）優秀講演賞，山本量也(学部4年生)（指導教員 石丸伊知郎）優秀講演賞，児山浩崇(修士1年生)（指導教員 大平文和）優秀講演賞，毛利洵平(修士2年生)（指導教員 須崎嘉文）優秀講演賞（精密工学会中国四国支部）

編集：工学広報室

電話：087-864-2000、FAX: 087-864-2032

e-mail: info@eng.kagawa-u.ac.jp、 <http://www.eng.kagawa-u.ac.jp/news/>